

下記は、10月16日(アメリカ時間)に発表されたプレスリリースの翻訳です。

**シティ、2008年第3四半期の決算を発表  
純損失は28億ドル、一株当たり損失は0.60ドル**

**継続事業における純損失の34億ドル、一株当たり損失の0.71ドルは、  
債券の評価損及び個人向け与信費用の増加が主因**

**費用、人員及び非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)の削減につき前進**

**強固な資本及び構造的流動性を持続**

2008年10月16日ニューヨーク発：シティグループ・インク(NYSE:C)は本日、2008年第3四半期の決算は純損失28億ドル、発行済株式数5,342百万株の一株当たり損失0.60ドルと発表しました。業績には、証券及び銀行業務における44億ドルの正味評価損(税引き前)(11ページの付表Bを参照してください。)、49億ドルの正味貸倒損失及び貸倒引当金を積み増すための39億ドルの正味繰入れが含まれています。

#### ハイライト

- ・ 2007年第3四半期に比べ純利息収益は13%増加し、利ざや(正味利息マージン)は79ベース・ポイント上昇。
- ・ 証券及び銀行業務における評価損は3四半期連続の減少。
- ・ 総費用は、2008年第2四半期以降12億ドル減少し、3四半期連続の減少。
- ・ 2008年第2四半期以降人員を約11,000名削減し、年初からの9ヶ月間で約23,000名の削減。
- ・ 米国における個人及び法人の預金は、2008年第2四半期に比べ6%上昇し、2007年第3四半期に比べ11%上昇。
- ・ 総資産は、2008年第2四半期以降500億ドル減少し、2007年第3四半期以降3,080億ドル減少。
- ・ 非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)は2008年第2四半期以降約480億ドル減少。
- ・ Tier 1資本比率8.2%の強固な資本を維持。
- ・ シティストリート売却を完了、シティ・グローバル・サービス・リミテッドの売却を発表し、ドイツのリテールバンキング部門の売却を第4四半期に実施予定。

#### 経営陣のコメント

「シティの同僚達がこの激動期においてシティの優先的課題に取り組み続け、顧客へのサービスを最優先に考えていることに誇りを感じます。シティの第3四半期の業績は困難な環境と継続的な非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)の評価損を反映していますが、シティは、費用削減、人員、バランスシート及び資本の管理を含めそのコントロールする事業の各分野において目を見張る改善を遂げています。経済が安定するに従い、これらの改善によりシティは事業基盤における完全な収益力を実現できると期待しています。」とシティの最高経営責任者、ピクラム・パンディットは述べています。

「この信用サイクルの中でシティはリスク管理を果敢に行うことにも特に力を注ぎ、適切なヘッジ策を講じてきています。シティは、8.2%という非常に強固なTier 1比率と250億ドルの貸倒引当金を計上して本四半期を終えました。第4四半期のドイツのリテールバンキング部門の売却、非中核・不採算資産等(レガシー・アセット)の削減に継続的に注力すること、及び米国財務省による最近の施策により、シティの資本はよりいっそう強化されるでしょう。」とパンディットは続けています。

## シティの業績

単位: 百万ドル(一株当たり利益を除く)	第3四半期収益			第3四半期純利益		
	2008	2007	% 増減	2008	2007	% 増減
グローバル・カード部門	\$3,789	\$6,342	(40)%	\$(902)	\$1,442	NM
<i>グローバル・カード(管理対象)</i>	<i>7,368</i>	<i>7,466</i>	<i>(1)</i>			
個人向け銀行業務部門	7,429	7,302	2	(1,099)	156	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	2,393	4,617	(48)	(2,017)	267	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	3,164	3,519	(10)	363	490	(26)
本社事項/その他	(95)	(140)	32	232	(246)	NM
<b>継続事業からのシティ合計</b>	<b>\$16,680</b>	<b>\$21,640</b>	<b>(23)%</b>	<b>\$(3,423)</b>	<b>\$2,109</b>	<b>NM</b>
非継続事業				608	103	
<b>シティ合計</b>				<b>\$(2,815)</b>	<b>\$2,212</b>	<b>NM</b>
北米	\$5,954	\$10,239	(42)%	\$(4,639)	\$481	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	3,275	2,728	20	9	(20)	NM
ラテンアメリカ	3,078	3,994	(23)	280	1,084	(74)
アジア	4,468	4,819	(7)	695	810	(14)
本社事項/その他	(95)	(140)	32	232	(246)	NM
<b>継続事業からのシティ合計</b>	<b>\$16,680</b>	<b>\$21,640</b>	<b>(23)%</b>	<b>\$(3,423)</b>	<b>\$2,109</b>	<b>NM</b>
非継続事業				608	103	
<b>シティ合計</b>				<b>\$(2,815)</b>	<b>\$2,212</b>	<b>NM</b>
継続事業からの一株当たり利益				\$(0.71)	\$0.42	NM
一株当たり利益				\$(0.60)	\$0.44	NM

NM: 意味を持たない。

### 第3四半期の概要

- 収益は23%減少し167億ドルとなりました。当四半期の収益の減少は、証券及び銀行業務における44億ドルの正味評価損、北米におけるカード部門の証券化の業績の低下、及び2008年8月7日に発表されたオークションレート証券(ARS)の和解に関する612百万ドルの評価損によるものです。これらは、シティストリート売却の税引前利益347百万ドルにより一部相殺されました。前年同期には、729百万ドルのレデカード株式売却の税引前利益が存在しました。事業全体における収益は、厳しい経済環境と脆弱なキャピタル・マーケットの影響を反映しています。利ざや(正味利息マージン)は、2008年第2四半期に比べ1ベース・ポイント低下し3.13%となりました。

  - グローバル・カード部門のGAAP収益は40%減少しました。これは主に、北米における証券化の業績の低下及び前年同期に計上したレデカード株式の売却益が当四半期はなかったことによるものです。
  - グローバル・カード部門の管理収益は1%減少しました。これは主に、前年同期に計上したレデカード株式の売却益が当四半期はなかったことによるものですが、平均管理貸出金残高の6%の増加及び管理正味利息マージンの改善により一部相殺されました。北米における管理収益は7%増加しました。
  - 個人向け銀行業務部門の収益は2%増加しました。これは、北米での収益の増加がラテンアメリカ及びアジアでの減少により一部相殺された結果です。現行及び過去のドイツのリテールバンキング部門の損益計算書の項目は、非継続事業として再分類されました。関連する資産と負債は圧縮され、当四半期の貸借対照表において、売却目的で保有する非継続事業の資産及び負債にそれぞれ移されました。
  - インスティテューショナル・クライアント・グループにおいて、証券及び銀行業務の収益は、信用市場に関連する大幅な評価損及び損失により、81百万ドルの赤字となりました。これには、仕組投資ピークル(SIV)資産における評価損20億ドル、Alt-Aモーゲージの評価損12億ドル(ヘッジ控除後)、モノライン保険会社に対するエクスポージャーに関する与信評価の下方修正919百万ドル、実行・未実行の高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントに関する評価損792

百万ドル(引受手数料控除後)、商業不動産のポジションに関連する評価損 518 百万ドル、並びにサブプライム関連の直接的エクスポージャーに関する正味評価損 394 百万ドル(詳細については、12 ページの付表 C を参照してください。)が含まれます。収益の赤字には、ARS の和解に関する 306 百万ドルの評価損も含まれていますが、収益の赤字は公正価値オプションが選択された負債の市場価値の決定にあたりシティの信用スプレッドを反映させたことに関連する 15 億ドルの利益により一部相殺されています。

- トランザクション・サービスの収益は 20% 増加し、記録的な 25 億ドルとなりました。これは、全地域における二桁台の成長を反映するものです。平均預金残高などの顧客債務残高が 7% 増加しましたが、世界中の株式市場の低迷により、管理資産が 6% 減少しました。
- グローバル・ウェルス・マネジメント部門の収益は、10% 減少となりました。これは、キャピタル・マーケット及び投資事業の収益の低迷によるものですが、銀行業務及び貸出業務の収益の増加によって一部相殺されました。収益には、シティストリート売却の税引前利益 347 百万ドルも含まれていますが、収益は、ARS 和解に関連する評価損 306 百万ドルによって一部相殺されています。
- **営業費用**は前年同期に対して2%増加し、144億ドルとなりました。経費の増加には、459百万ドルのリポジショニング費用、ARS和解に関連する100百万ドルの費用及び買収の影響が反映されています。経費の増加は、リエンジニアリングへの取組みによる効果により一部相殺されました。インセンティブ報酬の減少及びリエンジニアリングへの取組みによる効果が継続したことにより、経費は3四半期連続の減少となりました。
- **与信費用**は86%増加し、91億ドルとなりましたが、これは主に、49億ドルの正味貸倒損失及び貸倒引当金を積み増すための39億ドルの正味繰入れにより構成されています。正味貸倒損失は、主に北米における個人向け銀行業務部門及びカード部門に牽引され、25億ドル増加しました。貸倒引当金を積み増すために17億ドルの正味繰入れの追加計上がなされたのは、主に北米における個人向け銀行業務部門及びカード部門並びに証券及び銀行業務に起因するものです。
- **税金**: 継続事業の実効税率は、前年同期の18.8%に対して当四半期は48.4%でした。税率の上昇は、主として損失が発生した地域の税率が高かったことによります。
- **資本ポジション**: 当四半期末現在におけるTier 1資本比率は、8.2%となりました。

### グローバル・カード部門

(単位:百万ドル)	第3四半期収益		%	第3四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	\$1,388	\$3,510	(60)%	\$(873)	\$808	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	593	566	5	(25)	30	NM
ラテンアメリカ	1,143	1,728	(34)	(36)	563	NM
アジア	665	538	24	32	41	(22)
<b>グローバル・カード部門合計</b>	<b>\$3,789</b>	<b>\$6,342</b>	<b>(40)%</b>	<b>\$(902)</b>	<b>\$1,442</b>	<b>NM</b>

NM: 意味を持たない。

(単位:百万ドル)	第3四半期収益		%
	2008	2007	
北米の GAAP 収益	\$1,388	\$3,510	(60)%
証券化業務の影響	3,579	1,124	NM
北米の管理収益	\$4,967	\$4,634	7%

NM: 意味を持たない。

### ● 収益

- グローバル・カード部門の GAAP 収益は 40% 減少しました。これは、主として、北米における証券化の業績の低下及び前年同期に計上したレデカード株式の売却による 729 百万ドルの税引前利益が当四半期はなかったことによるものです。
- グローバル・カード部門の管理収益は 1% 減少しました。これは主に、前年同期に計上されたレデカード株式の売却益が当四半期はなかったことによるものですが、平均管理貸出金残高の 6% の増加及び管理正味利息マージンの改善により一部相殺されました。

- 北米では、GAAP 収益は 60%減少しました。これは、証券化信託における現在及び今後予想される貸倒損失の顕著な増加並びに資金調達コストの増加の影響を反映して、証券化収益が減少したことによるものです。
  - 北米の管理収益は、7%増加しました。これは、平均管理貸出金残高の4%の増加及び管理正味利息マージンの改善によるものです。平均管理貸出金残高の増加はポートフォリオ全体にわたる返済率の低下によるものです。管理正味利息マージンは53 ベーシス・ポイント増加して 11.03%となりました。これは主としてリボルビング残高の増加によるものであり、利息及び手数料収入の増加に寄与しました。取扱高は、消費者によるガソリン及び食料等の生活必需品の消費の増加が裁量的消費の減少により相殺されたため、3%減少しました。
  - ヨーロッパ・中東・アフリカでは、収益は5%増加しました。これは主として、取扱高が7%、平均貸出金残高が14%それぞれ増加したことによるものです。
  - ラテンアメリカでは、収益は34%減少しましたが、これは、前年同期に計上されたレデカード株式の売却による729 百万ドルの税引前利益が当四半期はなかったことによるものです。レデカード株式売却益を除外すると、取扱高が14%、平均貸出金残高が19%それぞれ増加したことにより、収益は14%増加しています。
  - アジアでは、収益は24%増加しました。これは主として、取扱高が14%、平均貸出金残高が17%それぞれ増加したことによるものです。
- **経費**
    - 経費は1%減少しました。これは主として、顧客獲得マーケティングの純化を反映して報酬費用及びマーケティング費用が減少したことによるものですが、与信管理費用の増加により一部相殺されています。
- **与信費用**
    - 北米では、正味貸倒損失の68%(311 百万ドル)増加と、貸倒引当金を積み増すための309 百万ドルの正味繰入れの追加計上を反映して、与信費用はほぼ倍増しました。貸倒引当金を積み増すための正味繰入れには、証券化市場における価格及び流動性にかかる混乱によって貸借対照表へ組み戻された資産に関連する243 百万ドルが含まれています。与信費用の増加には、主な信用関連指標の悪化、マクロ経済環境のトレンド(失業率の上昇、破産申立ての増加及び住宅市場の低迷を含みます。)が反映されています。与信費用の増加には、延滞顧客が回収不能に至る比率が引き続き増加したことに加えて、通常の顧客が延滞に至る比率が顕著に増加したことも反映されています。管理正味貸倒損失率は262 ベーシス・ポイント上昇して7.13%となりました。
    - ヨーロッパ・中東・アフリカでは、主として貸倒引当金を積み増すための74 百万ドルの正味繰入れにより、与信費用は33%増加しました。与信費用の増加は、英国、スペイン、ギリシャ等の先進国におけるマクロ経済環境の悪化を反映したものです。
    - ラテンアメリカでは、正味貸倒損失の62%(185 百万ドル)増加と、貸倒引当金を積み増すための118 百万ドルの正味繰入れを反映して、与信費用は65%増加しました。与信費用の増加は、メキシコ及びブラジルにおける与信環境が引き続き悪化したことによるものです。正味貸倒損失率は351 ベーシス・ポイント上昇して13.16%となりました。
    - アジアでは、与信費用は51%増加しました。これは、正味貸倒損失の36%(42 百万ドル)の増加及び貸倒引当金を積み増すための65 百万ドルの正味繰入れの追加計上を反映したものです。与信費用の増加は、主としてインドにおいて引き続き状況が悪化したことを反映したものです。正味貸倒損失率は52 ベーシス・ポイント上昇して3.63%となりました。
- **純利益**
    - 純利益の減少により、902 百万ドルの純損失となりました。純利益の減少は、北米における証券化収益の減少、与信費用の顕著な増加及び前年同期に計上したレデカード株式の売却益が当四半期はなかったことを反映しています。

#### 個人向け銀行業務部門

(単位:百万ドル)	第3 四半期収益		%	第3 四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	\$4,414	\$4,164	6%	\$(1,080)	\$59	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	622	625	--	(94)	(28)	NM
ラテンアメリカ	1,015	1,071	(5)	29	102	(72)
アジア	1,378	1,442	(4)	46	23	NM
<b>個人向け銀行業務部門合計</b>	<b>\$7,429</b>	<b>\$7,302</b>	<b>2%</b>	<b>\$(1,099)</b>	<b>\$156</b>	<b>NM</b>

NM: 意味を持たない。

収益は 2% 増加しました。これは、北米における増加によるものですが、ラテンアメリカ及びアジアにおける減少に一部相殺されています。平均貸出金残高及び平均預金残高はそれぞれ 1% 増加したものの、資産運用商品の販売が 26% 減少しました。経費は 2% 減少しました。これは、リエンジニアリングへの取組みの効果が、買収の影響及び与信管理費用の増加を上回ったためです。また、経費は、前年同期に計上した日本の消費者金融事業における顧客の無形・固定資産の 152 百万ドルの評価損が、当四半期の 150 百万ドルのリポジショニング費用により相殺されたことを反映しています。与信費用は 82% (23 億ドル) 増加しました。これは、正味貸倒損失の大幅な増加 (16 億ドルの増加) 及び北米における貸倒引当金を積み増すための 679 百万ドルの正味繰入れの追加計上によるものです。

## ● 北米

- 収益は 6% 増加しました。これは、主に個人向けローン及び住宅用不動産ローン並びに預金スプレッドの拡大による正味利息収益の増加が、抵当貸付サービシング権資産及び関連ヘッジの時価評価による 192 百万ドルの損失に一部相殺されたことを反映しています。平均貸出金残高及び平均預金残高は、前年同期と基本的に同様です。経費は 2% 増加しました。これは、主に 87 百万ドルのリポジショニング費用及び与信管理費用の増加が、報酬費用の減少に一部相殺されたことによるものです。
- 与信費用は 22 億ドル増加しました。これは、主に住宅用不動産事業における正味貸倒損失の 14 億ドルの増加によるものです。与信費用は、貸倒引当金を積み増すための 19 億ドルの正味繰入れの計上 (前年同期から 739 百万ドルの増加) も反映しています。与信費用の増加は、第 1 順位抵当貸付における延滞が引き続き増加している、住宅用不動産事業が主な要因となっています。与信費用の増加は、主な信用関連指標の悪化及び住宅市場の低迷を含むマクロ経済環境のトレンドを反映しています。正味貸倒損失率は、194 ベーシス・ポイント上昇して 2.95% になりました。与信費用の大幅な増加により 11 億ドルの純損失となりました。

## ● ヨーロッパ・中東・アフリカ

- 収益は前年同期と同様です。平均貸出金残高が 5% 増加し、平均預金残高が 6% 減少しました。中央ヨーロッパ及び東ヨーロッパでは、平均預金残高は大幅に増加しましたが、西ヨーロッパでの減少がこれを上回りました。資産運用商品の販売及び運用資産は、主に市場活動の悪化及び資産販売の低迷を要因として減少しました。経費は、前年同期と基本的に同様です。
- 与信費用は 45% 増加しました。これは、正味貸倒損失の 55% (67 百万ドル) の増加及び貸倒引当金を積み増すための 18 百万ドルの正味繰入れの追加計上を反映しています。与信費用の増加は、スペイン及び英国等の一定の先進国におけるマクロ経済環境の悪化を反映しています。正味貸倒損失率は、96 ベーシス・ポイント上昇して 2.95% になりました。与信費用の大幅な増加により 94 百万ドルの純損失となりました。
- 現在及び過去のドイツのリテールバンキング部門の損益計算書上の項目は、非継続事業として再分類されました。関連する資産及び負債は圧縮され、当四半期の貸借対照表において、売却目的で保有する非継続事業の資産及び負債にそれぞれ移されました。

## ● ラテンアメリカ

- 収益は 5% 減少しました。これは、平均貸出金残高が 15%、平均預金残高が 5% それぞれ増加したものの、2008 年 1 月に完了したチリの個人向け銀行業務部門の売却及びスプレッドの縮小がこれを上回ったためです。経費は、5% 増加しました。これは主に 61 百万ドルのリポジショニング費用及び顧客取引高の増加によるものです。
- 与信費用は 15% 増加しました。これは、メキシコ、ブラジル及びコロンビアにおける悪化を反映して正味貸倒損失が 94 百万ドル増加したためです。与信費用の増加は、主に特定の政府関連法人に対するエクスポージャーの減少を要因とする貸倒引当金 13 百万ドルの正味戻入れによって一部相殺されました。正味貸倒損失率は、202 ベーシス・ポイント上昇して 4.53% になりました。純利益は、72% 減少して 29 百万ドルになりました。

## ● アジア

- 日本の消費者金融事業を除くと、収益は 2% 減少しました。これは、アジア全体の株式市場の低迷による資産運用商品の販売の 56% 減が、平均貸出金残高 8% 及び平均預金残高 4% の増加を上回ったためです。与信費用は、正味貸倒損失の 91% (83 百万ドル) の増加及び貸倒引当金を積み増すための 64 百万ドルの正味繰入れの追加計上のため、

2倍以上となりました。与信費用が増加したのは、主に、費用削減及び損失軽減のため積極的に事業の見直しを行っているインドにおける与信環境が引き続き悪化しているためです。正味貸倒損失率は、60 ベース・ポイント上昇して 1.38% となりました。純利益は、36% 減少して 205 百万ドルとなりました。

- 日本の消費者金融事業では、収益は 15% 減少しました。これは、引き続きポートフォリオ抑制をしたことにより平均貸出金残高が 8% 減少したことを反映しています。費用は、前年同期に計上した顧客の無形・固定資産の 152 百万ドルの評価損のために 67% 減少しました。159 百万ドルの純損失は、前年度の 298 百万ドルの損失からは改善されており、厳しい事業環境及び 2006 年第 4 四半期中に成立した消費者金融関連法の影響が継続していることを反映しています。

### インスティテューショナル・クライアント・グループ

(単位:百万ドル)	第 3 四半期収益		%	第 3 四半期純利益		%
	2008	2007		2008	2007	
北米	<b>\$(2,693)</b>	\$(336)	NM	<b>\$(3,037)</b>	\$(780)	NM
ヨーロッパ・中東・アフリカ	<b>1,043</b>	674	55	<b>(175)</b>	(205)	15
ラテンアメリカ	<b>463</b>	812	(43)	<b>126</b>	297	(58)
アジア	<b>1,106</b>	1,398	(21)	<b>252</b>	364	(31)
証券及び銀行業務	<b>\$(81)</b>	\$2,548	NM	<b>\$(2,834)</b>	\$(324)	NM
北米	<b>\$528</b>	\$446	18%	<b>\$87</b>	\$60	45%
ヨーロッパ・中東・アフリカ	<b>870</b>	724	20	<b>279</b>	179	56
ラテンアメリカ	<b>365</b>	291	25	<b>145</b>	110	32
アジア	<b>711</b>	608	17	<b>306</b>	242	26
トランザクション・サービス	<b>\$2,474</b>	\$2,069	20%	<b>\$817</b>	\$591	38%
<b>インスティテューショナル・クライアント・グループ</b>	<b>\$2,393</b>	\$4,617	(48)%	<b>\$(2,017)</b>	\$267	NM

NM:意味を持たない。

#### ● 証券及び銀行業務

- 証券及び銀行業務の収益は、債券市場及び信用市場に関連する大幅な評価損及び損失により、81 百万ドルの赤字となりました。収益には、公正価値オプションが選択された負債の市場価値の決定にあたり、シティの信用スプレッドを反映させたことに関する 15 億ドルの利益が含まれます。
- 債券市場業務の収益は、24 億ドルの赤字となりました。これには、以下の要因が反映されています。
  - SIV 資産における評価損 20 億ドル。
  - Alt-A モーゲージの評価損 12 億ドル(ヘッジ控除後)。
  - モノライン保険会社に対するエクスポージャーに関する与信評価の下方修正 919 百万ドル。
  - 商業不動産のポジションに関する評価損 518 百万ドル。
  - サブプライム関連の直接的エクスポージャーに関する正味評価損 394 百万ドル。2008 年 6 月 30 日における当該エクスポージャーとしては、貸出及びストラクチャリング業務に係る総エクスポージャーが約 43 億ドル、また ABS CDO スーパー・シニアに係る正味のエクスポージャーが約 181 億ドル(ABS CDO スーパー・シニアに係る総エクスポージャーは 279 億ドル)ありました。2008 年 9 月 30 日における当該エクスポージャーとしては、貸出及びストラクチャリング業務に係る総エクスポージャーが約 33 億ドル、また ABS CDO スーパー・シニアに係る正味のエクスポージャーが約 163 億ドル(ABS CDO スーパー・シニアに係る総エクスポージャーは 257 億ドル)ありました。詳細については、12 ページの付表 C を参照してください。
  - ARS 自己勘定ポジションに関する評価損 166 百万ドル。
  - 収益の赤字にはさらに、ARS 和解に関する 306 百万ドルの評価損も含まれます。
  - 収益の赤字は、債券及び為替取引における好調な収益により一部相殺されました。

- 株式市場業務の収益は 54%減少し、476 百万ドルとなりました。プライム・ブローカーにおける順調な収益の増加が、デリバティブ及び現金の低迷、並びに転換社債、GSE(政府支援法人)ポジション、及び自己勘定トレーディングにおける損失の増加により相殺されました。
- 貸出業務の収益は 907 百万ドル増加し、13 億ドルとなりました。これは、主にクレジット・デフォルト・スワップのヘッジによる収益によりますが、実行・未実行の高レバレッジ・ファイナンスのコミットメントに関する評価損 231 百万ドル(引受手数料控除後)により一部相殺されました。
- 投資銀行業務の純収益は 73%減少し、142 百万ドルとなりました。
  - アドバイザー業務の収益は、引き続き厳しい市場状況を反映して、31%減少し、315 百万ドルとなりました。
  - 株式引受業務の収益は、世界的な株式取引高の大幅な減少を反映して、83%減少の 65 百万ドルとなりました。
  - 債券引受業務の収益は、173 百万ドルの赤字となりました。これは、主として高レバレッジ・ファイナンスのコミットメントに関する 561 百万ドルの正味評価損、及び市場取引高の全体的な減少によるものです。
- 北米の業績には高レバレッジ・ファイナンスのコミットメント及びサブプライム関連の直接的エクスポージャーに関する評価損の減少、また SIV、Alt-A モーゲージ、商業不動産のポジション、及び ARS 自己勘定ポジションに関する評価損及び損失の増加が反映されています。ヨーロッパ・中東・アフリカでの収益は、55%増加しましたが、これは主に、サブプライム関連の直接的エクスポージャーが 2008 年第 2 四半期に公正市場価格でヨーロッパ・中東・アフリカから北米に移転された後、現在主に北米で運用されているからです。ヨーロッパ・中東・アフリカでの収益はさらに、現地市場における販売及びトレーディングの好調な業績も反映しています。ラテンアメリカの収益は 43%減少し、主に債券及び為替事業関連の不利な市場状況、及び株式市場・貸出業務の業績の低迷を反映しています。アジアにおける収益は 21%減少し、厳しい市場状況、及び自己勘定取引による損失(債券及び為替事業の好調な業績によって一部相殺)を反映しています。
- 経費は 21%増加しました。これは、前年同期のインセンティブ報酬に対する大幅な下方修正によるものです。経費の増加には、当四半期の 221 百万ドルのリポジショニング費用も含まれていますが、その他の営業費用と一般管理費の減少により一部相殺されました。
- 与信費用は、主に、貸倒引当金を積み増すための 447 百万ドルの正味繰入れの追加計上のため大きく増加しました。これは、特定の融資先の増加のための貸倒引当金、並びに法人向けローンポートフォリオにおける与信の質の低下を反映しています。与信費用は、貸付債権の売却に主に関連する正味貸倒損失の 287 百万ドルの増加によるものでもあります。

#### ● トランザクション・サービス

- トランザクション・サービス業務の収益は、20%増加し、記録的な 25 億ドルとなりました。これは全地域における二桁台の収益の伸びを反映しています。平均預金残高及び他の顧客債務残高は 7%増加しましたが、世界的な株式市場の低迷により、管理資産が 6%減少しました。
  - トレジャーリー及びトレード・ソリューションズ(TTS)の収益は 25%増加しました。これは、債務及び手数料の増加並びに、トレード・ローンの利回りの上昇によるものです。証券サービスの収益は 10%改善しました。これは主に、2007 年 8 月に完了したバイシスの買収の影響によるものです。
  - 北米の収益の 18%の増加は、主に新規事業の獲得とバイシスの買収によるものです。ヨーロッパ・中東・アフリカでは、顧客債務残高が 16%増加して、収益が 20%増加しました。ラテンアメリカの収益は、顧客債務残高の増加及び新規事業の獲得を反映して、25%増加しました。アジアの収益は 17%増加しました。これは、主に顧客取引高の増加とスプレッドの改善による TTS の二桁台の成長を反映しています。
- 経費は 5%増加しました。これは、主に顧客取引高の増加及びバイシスの買収によるものです。純利益は、全地域における二桁台の成長に伴い、38%増加して記録的な 817 百万ドルとなりました。

#### グローバル・ウェルス・マネジメント部門

(単位:百万ドル)	第 3 四半期収益			第 3 四半期純利益		
	2008	2007	% 増減	2008	2007	% 増減
北米	\$2,317	\$2,455	(6)%	\$264	\$334	(21)%
ヨーロッパ・中東・アフリカ	147	139	6	24	4	NM

ラテンアメリカ	92	92	--	16	12	33
アジア	608	833	(27)	59	140	(58)
<b>グローバル・ウェルス・マネジメント部門</b>	<b>\$3,164</b>	<b>\$3,519</b>	<b>(10)%</b>	<b>\$363</b>	<b>\$490</b>	<b>(26)%</b>

NM:意味を持たない。

- グローバル・ウェルス・マネジメント部門の収益は10%減少しました。これはキャピタル・マーケット及び投資事業の収益の低迷によるものですが、銀行業務及び貸出業務の収益の増加によって一部相殺されました。収益には、シティ・ストリート売却の税引前利益による347百万ドルも含まれていますが、収益はARS和解に関連する306百万ドルによって一部相殺されています。平均貸出金残高は12%、平均預金残高は4%、それぞれ増加し、手数料ベースの運用顧客資産残高は19%減少しました。手数料ベースの運用顧客資産残高の減少は、主として弱含みの市場動向を反映して資産評価が低下したことによるものです。
  - 北米の収益は6%減少しました。これは主として、投資及びキャピタル・マーケット事業の収益の減少によるものですが、平均預金残高の10%増加により一部相殺されています。ヨーロッパ・中東・アフリカの収益は、銀行業務の収益の増加がキャピタル・マーケット事業の収益の減少による相殺分を上回ったため、6%増加しました。ラテンアメリカにおける収益は前年同期と同等となっています。アジアの収益は、厳しい市場状況によるキャピタル・マーケット事業の収益の大幅な減少をうけて27%減少しました。
- 経費は4%減少しました。これは報酬費用の減少を反映したものです。ARS和解に関連する50百万ドルの費用計上により一部相殺されています。与信費用は14%増加しました。これは貸倒引当金を積み増すための8百万ドルの正味繰入れの追加計上によるものです。純利益は、主として北米及びアジアの減益により、26%減少して363百万ドルとなりました。

#### 本社事項/その他

本社事項/その他の収益の改善は、主として資金調達コストの低下及び効果的なヘッジによるものですが、税金資産の増加及びシティの流動性ポジションの増加に対応する資金調達により一部相殺されています。232百万ドルの純利益は本社が保有する税務便益の増加を反映しています。

#### 非継続事業

非継続事業における608百万ドルの利益は、主としてシティのドイツにおけるリテールバンク部門の売却の影響を反映しており、これには当四半期の事業からの112百万ドルの純利益、当該売却による予想利益についての外国為替ヘッジに関連する213百万ドルの税引後効果、及び当該売却の結果発生するドイツにおける税務損失に関連する279百万ドルの税務便益が含まれています。

非GAAPの財務情報の調整は、本プレスリリースの15ページに記載されています。



シティは、約 2 億の顧客口座を有し、世界 100 カ国以上に展開する世界有数のグローバルな金融機関です。顧客、企業、政府及び機関投資家を対象として、個人向け銀行業務、消費者金融、法人・投資銀行業務、証券業務、資産管理の分野において、幅広い金融商品やサービスを提供しています。シティの主要なブランドには、シティバンク、シティ・フィナンシャル、プライメリカ、スミス・パーニー、パナメックス及び日興が含まれます。詳しくは、[www.citigroup.com](http://www.citigroup.com) または [www.citi.com](http://www.citi.com) をご覧ください。

追加の財務、統計及び業務関連の情報並びに業務及びセグメントのトレンドに関してはフィナンシャル・サプPLEMENT (Financial Supplement) に含まれています。本発表及びフィナンシャル・サプPLEMENTはシティのウェブサイト ([www.citigroup.com](http://www.citigroup.com) または [www.citi.com](http://www.citi.com)) にて入手することができます。

本書には、米国民事証券訴訟改革法に定める「将来の見通しに関する記述」が含まれています。こうした記述は、経営陣の現在の予測に基づくものであり、不確実要素や状況の変化により影響を受けます。様々な要因により、実際に生じる結果は、こうした記述に含まれる情報と大きく異なる可能性があります。これらの要因に関するより詳細な情報は、シティグループが米国証券取引委員会に提出する文書中に記載されます。

本発表に関する日本国内の連絡先:

シティグループ・インク代理人

長島・大野・常松法律事務所

弁護士 杉本文秀

電話:03-3511-6133(直通)

付表 A

地域別業績

(単位:百万ドル)	第3四半期収益			第3四半期純利益		
	2008	2007	% 増減	2008	2007	% 増減
グローバル・カード部門	\$1,388	\$3,510	(60)%	\$(873)	\$808	NM
個人向け銀行業務部門	4,414	4,164	6	(1,080)	59	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	(2,165)	110	NM	(2,950)	(720)	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	2,317	2,455	(6)	264	334	(21)
<b>北米</b>	<b>\$5,954</b>	<b>\$10,239</b>	<b>(42)%</b>	<b>\$(4,639)</b>	<b>\$481</b>	<b>NM</b>
グローバル・カード部門	\$593	\$566	5%	\$(25)	\$30	NM
個人向け銀行業務部門	622	625	--	(94)	(28)	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	1,913	1,398	37	104	(26)	NM
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	147	139	6	24	4	NM
<b>ヨーロッパ・中東・アフリカ</b>	<b>\$3,275</b>	<b>\$2,728</b>	<b>20%</b>	<b>\$9</b>	<b>\$(20)</b>	<b>NM</b>
グローバル・カード部門	\$1,143	\$1,728	(34)%	\$(36)	\$563	NM
個人向け銀行業務部門	1,015	1,071	(5)	29	102	(72)
インスティテューショナル・クライアント・グループ	828	1,103	(25)	271	407	(33)
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	92	92	--	16	12	33
<b>ラテンアメリカ</b>	<b>\$3,078</b>	<b>\$3,994</b>	<b>(23)%</b>	<b>\$280</b>	<b>\$1,084</b>	<b>(74)%</b>
グローバル・カード部門	\$665	\$538	24%	\$32	\$41	(22)%
個人向け銀行業務部門	1,378	1,442	(4)	46	23	NM
インスティテューショナル・クライアント・グループ	1,817	2,006	(9)	558	606	(8)
グローバル・ウェルス・マネジメント部門	608	833	(27)	59	140	(58)
<b>アジア</b>	<b>\$4,468</b>	<b>\$4,819</b>	<b>(7)%</b>	<b>\$695</b>	<b>\$810</b>	<b>(14)%</b>
本社事項/その他	(95)	(140)	32	232	(246)	NM
<b>継続事業からのシティ合計</b>	<b>\$16,680</b>	<b>\$21,640</b>	<b>(23)%</b>	<b>\$(3,423)</b>	<b>\$2,109</b>	<b>NM</b>
非継続事業				608	103	
<b>シティ合計</b>				<b>\$(2,815)</b>	<b>\$2,212</b>	<b>NM</b>

NM: 意味を持たない。

付表 B

証券及び銀行業務の収益項目の概要

(単位:百万ドル)	2008年 第3四半期
SIV 資産の評価損	\$(2,004)
Alt-A 抵当貸付けの評価損(ヘッジ控除後)	(1,153)
モノライン保険会社のエクスポージャーに関する与信評価の下方修正	(919)
高レバレッジ・ファイナンス・コミットメントの評価損(引受手数料控除後)	(792)
商業不動産ポジションの評価損	(518)
サブプライム関連の直接的エクスポージャーの正味評価損	(394)
ARS 自己勘定ポジションの評価損	(166)
公正価値オプションによるシティの負債の時価会計	1,526
合計	\$(4,420)

付表C

証券及び銀行業務におけるサブプライム関連の直接的エクスポージャー  
 以下の表は、証券及び銀行業務におけるシティのサブプライム関連の直接的エクスポージャー(CDO スーパー・シニアに係るエクスポージャー並びに貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャーにより構成)を示したものであります。

(単位:10 億ドル)	2008 年 6 月 30 日 エクスポージャー	2008 年第 3 四半期 評価損 <sup>(1)</sup>	2008 年第 3 四半期 売却 / 移転 / リスト ラクチャリング / 清算 / 返済	2008 年 9 月 30 日 エクスポージャー
<b>直接的 ABS CDO スーパー・シニア・エクスポージャー:</b>				
ABS CDO スーパー・シニアに係る 総エクスポージャー	\$27.9			\$25.7
ヘッジド・エクスポージャー	9.8			9.4
ABS CDO スーパー・シニアに係る 正味のエクスポージャー:				
ABCP <sup>(2)</sup>	\$14.4	\$(0.8)	\$(0.3)	\$13.3
ハイグレード	2.0	0.2 <sup>(3)</sup>	(1.1)	1.1
メザニン	1.6	0.3 <sup>(3)</sup>	(0.2)	1.7
ABS CDO スクエアード	0.2	(0.0)	(0.0)	0.1
<b>ABS CDO スーパー・シニアに係る 正味のエクスポージャー合計</b>	<b>\$18.1</b>	<b>\$(0.3)</b>	<b>\$(1.5)<sup>(4)</sup></b>	<b>\$16.3</b>
<b>貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャー:</b>				
一時保有の CDO / ABS CDO の 未販売トランシェ	\$0.1	\$(0.0)	\$(0.0)	\$0.1
転売又は証券化目的で購入された サブプライム・ローン	2.8	(0.3)	(0.4)	2.1
サブプライムにより担保された ファイナンス取引	1.5	(0.2) <sup>(3)</sup>	(0.2)	1.1
<b>貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャー合計</b>	<b>\$4.3</b>	<b>\$(0.5)</b>	<b>\$(0.6)</b>	<b>\$3.3</b>
<b>エクスポージャー合計<sup>(5)</sup></b>	<b>\$22.5</b>	<b>\$(0.8)</b>	<b>\$(2.1)</b>	<b>\$19.6</b>
ヘッジ・カウンターパーティー・エクスポージャー に係る 与信評価の調整 <sup>(6)</sup>		\$(0.9)		
<b>正味評価損合計</b>		<b>\$(1.7)</b>		

(1) 清算に伴う純利益を含みます。

(2) 過去のハイグレードの ABS CDO を含みます。

(3) 与信費用に計上された合計 357 百万ドルも含まれます。

(4) CDO の清算に伴い原資産である有価証券の一部が買い取られ、トレーディング・ブック上で管理・売却が行われています。2008 年 9 月 30 日現在、清算された取引に関する 347 百万ドルがトレーディング・ブック上で保管されています。

(5) CDO スーパー・シニアに係る正味のエクスポージャー並びに貸出及びストラクチャリング業務におけるエクスポージャーの総額によって構成されます。

(6) FAS 第 157 号による調整はカウンターパーティーと信リスクに関連するものです。

注記: 四捨五入により、合計欄は必ずしも上記の値の総計ではありません。

シティの CDO スーパー・シニアに係るサブプライム関連の直接的エクスポージャーを構成する ABCP 及び CDO スクエアードは、清算に関連する損失を除き、観察可能な取引を基礎とした評価ではなく、内在的なキャッシュフロー分析を基礎とした評価に服しています。第 3 四半期において、見込額算定のための数値は市場の動向を反映するために修正されています。かかる分析方法では、将来 4 年間にわたる住宅価格の調整見込み、失業率、利率、その変動率及び Mortgage の実績データを含むマクロ経済ファクター、並びに、貸付の性格(例えば貸付期間、与信スコア、契約等の作成状況、ローン・トゥー・バリュー(LTV)比率及びデット・トゥー・インカム(DTI)比率)を含むミクロ経済ファクターの両方を考慮に入れています。加えて、かかる分析では、抵当担保の地域的集中の影響、サブプライム抵当担保の組成に関し報告されている詐欺行為の予想される影響や各段階におけるエクスポージャーに適用される割引率を考慮に入れています。

第 3 四半期の終了時において、スーパー・シニアに係るサブプライム関連の直接的エクスポージャーを構成するハイグレード及びメザニンは、原資産担保の取引に基づいて評価されています。かかる変更は、現在、ハイグレード及びメザニンのポジションが観察可能な取引に基づいて評価されるショートポジションによって大きくヘッジされていること及び第 3 四半期において複数のハイグレード及びメザニンのポジションの清算があったことによるものです。

ABCP 及び CDO スクエアードスーパー・シニアに係るエクスポージャーの公正価値の見込額は市場状況によって異なり、将来のさらなる変化に服するものです。また、シティはかかるエクスポージャー評価に使われる分析方法が合理的であると信じておりますが、かかる分析方法は、将来の市場環境の変化等に応じて継続的に改善されていくものです。さらにいくつかあるいは全てのかかる ABCP 及び CDO スクエアードのエクスポージャーに関する観察可能な取引が行われているか、

又は将来行われる限度において、見込額に代えて、かかる観察可能な取引が公正価格の決定に使われる可能性があります。

ほとんどの貸出及びストラクチャリング業務における直接的サブプライムエクスポージャーは観察可能な取引及びその他の市場データを基礎とした公正価格です。このエクスポージャーの大半はレベル 3 資産に分類されます。

証券および銀行業務においては、米国のサブプライム住宅抵当引当証券 (RMBS) 及び関連商品 (例えば ABS CDO) に関する、トレーディングに関するショート、ロングの両ポジションを持っておりますが、それらは上記の数値には入っておりません。かかるポジションに関するエクスポージャーは積極的に管理され、またヘッジされておりますが、使用されているヘッジ商品の有効性は市場環境の重要な変化によって変わってくる可能性があります。

付表 D

継続事業からのプレスリリース開示項目の概要(単位:百万ドル)  
証券及び銀行業務におけるサブプライム関連の直接的エクスポージャーについては、付表 C をご参照下さい。

2008年第3四半期(単位:百万ドル)	税引き前効果	税引き後効果	損益計算書の 項目	事業部門/地域
ARS和解 <sup>(1)</sup>	\$(712)	\$(471)	収益/費用	証券及び銀行業務部門及びGWM/ 北米
リポジショニング費用	\$(459)	\$(288)	費用	シティ全体
シティストリート	\$347	\$222	収益	GWM/北米

(1) 収益項目において税引前\$(612)(税引後\$(371))及び費用項目において税引前\$(100)(税引後(\$100))を計上しています。

2007年第3四半期(単位:百万ドル)	税引き前効果	税引き後効果	損益計算書の 項目	事業部門/地域
レデカード株式売却	\$729	\$469	収益	グローバル・カード部門/ ラテンアメリカ
日本の消費者金融事業の無形固定資産 の評価損	\$(152)	\$(98)	費用	個人向け銀行業務部門/アジア

## 非 GAAP 財務指標

下記は、米国証券取引委員会 (SEC) 規則の「非 GAAP 財務指標」として考慮される指標です。

- 1) グローバル・カード部門の収益は管理ベースとなっています。
- 2) ラテンアメリカ カード部門の収益は、前年同期のレデカード株式の売却益を除外しています。
- 3) アジア個人向け銀行業務部門の収益は、日本の消費者金融事業を除外しています。
- 4) アジア個人向け銀行業務部門の与信費用は、日本の消費者金融事業を除外しています。
- 5) アジア個人向け銀行業務部門の正味貸倒損失率は、日本の消費者金融事業を除外しています。
- 6) アジア個人向け銀行業務部門の純利益は、日本の消費者金融事業を除外しています。

当社は、これらの非 GAAP 財務指標は、現在の業務のより深い理解を提供し、前期間におけるこれらの結果との比較可能性を高め、また、当四半期における特別の利益や費用の影響を示すものであると考えます。当社は、その業績の意義ある分析のためには業績の背後にあるファクターの理解が欠かせないものであると考えます。当社は、当社の業績の基本的なトレンドを不明確化する可能性のある特別な項目の影響を除いた業績を分析するため、投資家の皆様にとって非 GAAP 財務指標をご覧頂くことが有用であるものと考えております。

上記 GAAP 財務指標から非 GAAP 財務指標への調整は下記のとおりです。

	2008 年 第 3 四半期	2007 年 第 3 四半期	2008 年第 3 四半期と 2007 年第 3 四半期の増 減比較 (%)
<i>(単位:百万ドル)</i>			
GAAP 基準のグローバル・カード部門収益	\$3,789	\$6,342	(40)%
証券化業務による影響を除く	<u>3,579</u>	<u>1,124</u>	
非 GAAP 基準のグローバル・カード部門収益	\$7,368	\$7,466	(1)%
GAAP 基準のラテンアメリカ カード部門収益	\$1,143	\$1,728	(34)%
レデカード株式の売却益を除く	<u>1,143</u>	<u>(729)</u>	
非 GAAP 基準のラテンアメリカ カード部門収益	\$1,143	\$999	14%
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門収益	\$1,378	\$1,442	(4)%
日本の消費者金融事業の収益を除く	<u>(225)</u>	<u>(264)</u>	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門収益	\$1,153	\$1,178	(2)%
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門と信費用	\$663	\$615	8%
日本の消費者金融事業の与信費用を除く	<u>(386)</u>	<u>(485)</u>	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門と信費用	\$277	\$130	NM
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門正味貸倒損失率	3.23%	3.00%	23 bps
日本の消費者金融事業正味貸倒損失率を除く	<u>15.05%</u>	<u>15.12%</u>	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門正味貸倒損失率	1.38%	0.78%	60 bps
GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門純利益	\$46	\$23	NM
日本の消費者金融事業の純利益を除く	<u>159</u>	<u>298</u>	
非 GAAP 基準のアジア個人向け銀行業務部門純利益	\$205	\$321	(36)%